

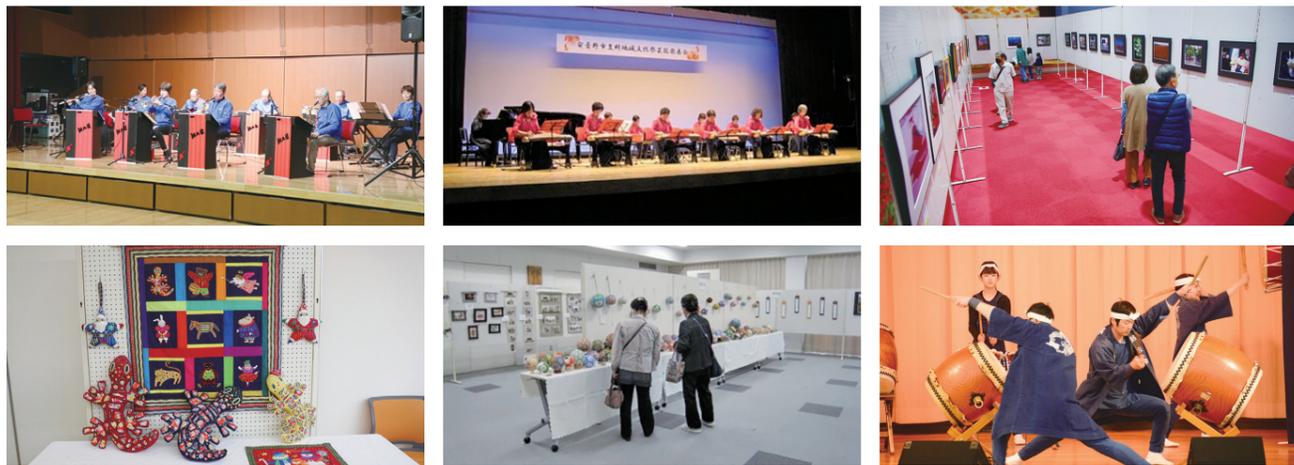
公民館報

No.70 [2023.12.20]
安曇野市中央公民館 ☎71-2466

- ・表紙「令和5年安曇野市文化祭」..... p.1
- ・安曇野を知る1枚「白井吉見文学館」..... p.1
- ・地域文化祭(穂高・三郷)..... p.2
- ・地域文化祭(堀金・明科)..... p.3
- ・地域文化祭(豊科)..... p.4
- ・グループ紹介「大正琴教室」..... p.4



令和5年度安曇野市文化祭



安曇野市内5公民館で10月13日から11月19日にかけて菊花展・作品展示・芸能発表会・ピアノリレーコンサートなどが開催され、多くの方が訪れた。この展示作品の中から選ばれた作品が、3月に豊科交流学習センター「きぼう」で開催される安曇野市総合芸術展で一堂に会して展示される。

安曇野を知る1枚 白井吉見文学館

堀金総合体育館の西、堀金中央公園の一角に白井吉見文学館がある。常念岳を背に漆喰の外壁と海鼠壁が映える土蔵造りの文学館が緑の木立の中に静かに佇んでいる。堀金田尻の出身で、安曇野の名を世に広めた小説『安曇野』の作者、白井吉見の生原稿や写真等の資料を展示している。執筆にあたった書齋も再現し、白井の足跡が肌で感じられる。市では、小説『安曇野』の大河ドラマ化実現活動を展開中である。



「第19回豊科地域文化祭」が2か所の会場で10月26日から11月19日まで行われた。

【豊科公民館会場】

菊花展(10月26日～11月3日)は、「楽しい菊作り講座」の受講生を中心にたくさんの作品が出展され、会場は菊の香に満ちていた。今年は菊の開花が遅れて心配されたが、11月に入るときれいに咲き揃い大勢の見物客でにぎわった。大輪の部は、2年連続で高木登啓さんが最優秀賞を受賞した。



一般展示(10月28日～29日)は、写真・絵画・手工芸等の展示。初出品の着物リメイクをはじめ数多くの作品が出品されたが、紙で作ったジオラマなど珍しい作品も展示された。

芸能発表会(11月3日)は、あづみの太鼓保存会の演奏を皮切りに始まった。4年ぶりに小中学生の吹奏楽部や合唱部の発表もあり、会場が盛り上がった。



短歌大会(11月11日)は、12人から出詠があり、歌会が行われた。

俳句大会(11月12日)は、一般の部には46人230句の投句があり、高点句が表彰された。ジュニアの部には650人899句の投句があった。

ピアノリレーコンサート(11月19日)は、今年は26組46人の発表であった。小学生から年配の方まで幅広い年齢層による演奏会となり、クラシックの名曲から現代の曲まで、ジャンルを問わず様々な演奏が繰り広げられた。

【豊科交流学習センター「きぼう」会場】

一般展示(11月3日～5日)は、書道・華道・フラワーアレンジメント・拓本・手工芸の展示が行われた。書道では、小中学生の作品も多く展示され、会場を盛り上げた。華道・フラワーアレンジメントも例年と同様華やかな作品が多く、気品が感じられた。



グループ紹介 大正琴 琴伝流 葵教室 (豊科)

本グループは、本村公民館で活動している団体であり、教室の取りまとめ役である市川節子さんが平成の初めに本村区の仲間を募り開始した。当初は15人であったが、現在は指導者を含めて8人で活動している。毎月2回木曜日が練習日である。

主な活動は、本村区の敬老会・区社会福祉協議会のサロン・区の文化祭・安曇野市内の高齢者施設での演奏である。最近は、詩吟の団体と合同の活動も模索している。

本村公民館で活動している団体の中では、最も歴史があり、公民館行事にも積極的に参加し活動を盛り上げている。区民は演奏になじんでおり楽しみにしている。

メンバーの楽しみは、練習日の休憩時のお茶とおしゃべりである。メンバーも年々高齢化しているが、みんなで励まし合い楽しい演奏をめざしてがんばっている。



編集後記

◆先日のこと、横断歩道前で手を挙げていた小学生がいたので停車したら、渡り終えて深々とお辞儀をされた。私はここに来て2回目の経験だが、この街ではよくあるようだ。安曇野はやっぱりいい街だ。(Y・I)

◆国内外からの旅行者がサイクリングやハイキングを楽しむ姿に、日常が戻ってきたんだなあとしみじみ。公民館イベント、同窓会、そして忘年会・新年会もほぼ通常運転。世界も早く平和な日常を取り戻しますように。(M・N)

【地域文化祭】



堀金公民館は10月27・28・29日の3日間、堀金総合体育館で「堀金文化祭」を開催した。

【作品展】

メインアリーナで、地区公民館の講座作品や俳句会・短歌会・書道・写真・生け花等のクラブ、福祉施設等34団体、約1200作品を展示した。力を合わせて作成したフラワーアレンジメントや郷土史の研究、子ども園の作品に小学生の書道や絵画、中学生の工作や手芸の学習の成果が出展された。岩原地区公民館は、廃品ロスや環境対策にも繋がる、新聞紙で制作した講座作品の「エコバッグ」を展示して注目を集めていた。



【芸能祭】

サブアリーナで28日に24演目、236人が出演した。「堀金常念太鼓」は「保存会」・「童」・「女雅美」の各グループが、それぞれの特徴を活かした演奏を行い、「雲龍太鼓 With



響遊会」は勇壮な和太鼓を披露した。

太極拳・居合道の披露、舞踊・キッズダンス・社交ダンス・フラダンスの舞いに文化箏・オカリナ・横笛の優しい音色や詩吟・民謡・コーラス・フォークソングの歌声が響いていた。

童謡唱歌を歌う公民館講座のメンバーは、叙情溢れる心の歌を熱唱した。

【堀金駅伝大会】

11月5日、拾ヶ堰沿いコースで「公民館対抗駅伝」とオープン参加の「ロードレース」を行った。96人が出場し、駅伝は中学陸上の精鋭が名を連ねる中堀公民館が圧倒的大差をつけて優勝した。



「第19回穂高文化祭」が10月20日から11月12日の間に穂高会館と穂高神社の2会場で開催された。

【穂高会館会場】

10月27日から29日に「総合美術展」「芸能まつり」「高齢者作品展」が開催された。

アリーナの「総合美術展」では、彫刻・絵画・書道・押し花・写真・生け花・瓢箪作品・わらかご・ステンレス彫刻などや、穂高地域の小中学生・高校生や有明高原寮・穂高悠生寮の美術作品など、様々な展示が会場を埋め尽くしていた。お茶席やあづみ野ビデオクラブによるビデオ放映もあり、盛りだくさんであった。



講堂の「芸能まつり」では、27日には「カラオケ発表会」が開催された。28日の「芸能まつり第一部」では詩吟・舞踊・フラ・エアロビック・フォークダンスなどが観客を楽しませている。

29日の「芸能まつり第二部」では、合唱・ウクレレ・ジャズ・フルート・三味線・和太鼓・金管合奏・管弦合奏・吹奏楽などの演奏が超満員の観客を魅了していた。

「高齢者作品展」では、盆栽と菊花・絵画・書・写真・手工芸など、多数の力作が発表されていた。

【穂高神社会場】

「盆栽・山野草展」が10月20日から22日に、「穂高人形展」が10月23日から11月12日に、「あづみ野菊花展」が10月28日から11月12日に開催された。



「第19回明科地域文化祭」が11月3・4・5日の3日間に開催された。

明科公民館の入り口には有志による華やかな菊花が、階段正面には今年初参加となる明科書道教室による巨大ポスターが飾られた。

初日の「歌声ひろば」では、アコーディオンの演奏に合わせて童謡や歌謡曲を皆で歌い楽しんだ。2日目の「お楽しみサロン」では、地元のダンスサークルによる「ZUMBA」、フラダンスなどの発表会。地元子ども達で構成されるダンスチーム「ひまわりキッズ」には50人を超える保護者が応援に駆けつけた。

1階、2階の展示スペースには毎年参加の「潮沢ロマンの会」の発表や、絵画・盆栽・編み物・和裁・折り紙教室・押し花絵画・小中学生の美術展示などに加え、明科高校美術部・書道部の作品も飾られた。また、先般のあや



め祭りで行われたフォトコンテストの投票会場も設置された。

最終日の芸能発表会では、コーラス・オカリナ演奏・折り紙体験・大正琴・謡曲・和太鼓など、そして明北・明南両小学校の金管バンドが合同演奏で「学園天国」「ヤングマン」のパフォーマンス。コロナ禍で参加を中止して以来、実に4年ぶりの参加となり、多くの保護者が訪れて非常に賑やかな演奏会となった。昨年までは参加を控えていた団体も多かったが、久しぶりに多くの住民が集まり、元気いっぱいの発表会となった。

会場を巡るスタンプラリーには延べ241人が参加、お菓子の掴み取りにも子どもら80人が集まり、全体では500人を超える来場者で大変盛況だった。



秋に一連のイベントが開催される「三郷祭」が、コロナ禍前と同様の規模となり復活した。

本年度は公開日程を1日延長した文化産業展が、10月13日から15日にかけて開催された。メイン会場の三郷公民館講堂には絵画・書道・写真・手工芸品など727点が一堂に展示され、また別会場には「みさと昆虫クラブ」の展示や「七日市場分館」による昔の写真も展示されるなど、多彩な展示が来場者の目を楽しませた。

4年ぶりの開催となったふれあいコンサートは、10月28日に三郷中学校講堂で開催され、初めての中学生による司会



のもと、小中学校の児童生徒や個人、クラブなど8つの個人団体による演奏や合唱などが披露された。観客は知っている曲には自然と手拍子をするなどして楽しみ、「良い時間を過ごさせてもらった」との感想が寄せられた。

こちらも4年ぶりの開催となった芸能発表会は11月4日、三郷公民館講堂で開催された。この日は11の団体が参加し、歌や踊り、伝統芸能や太鼓など多彩な演目が披露された。トップバッターで登場した「日本ふるさとうたの会」は、「ふるさと歌謡で地域を元気に」をモットーに活動しており、この日もオリジナル曲を披露した。

この芸能発表会を挟んだ10月30日から11月6日までは菊花展も開催され、60点余りの大小の菊花が公民館ロビーを彩った。世話をしていた小菊盆栽会の会員は、「今年は天候のせいもあり、やっと咲き始めたところです」と話し、記録的な暑さの夏が植物に及ぼした影響の大きさを感じた。

